

1) 新たな脅威

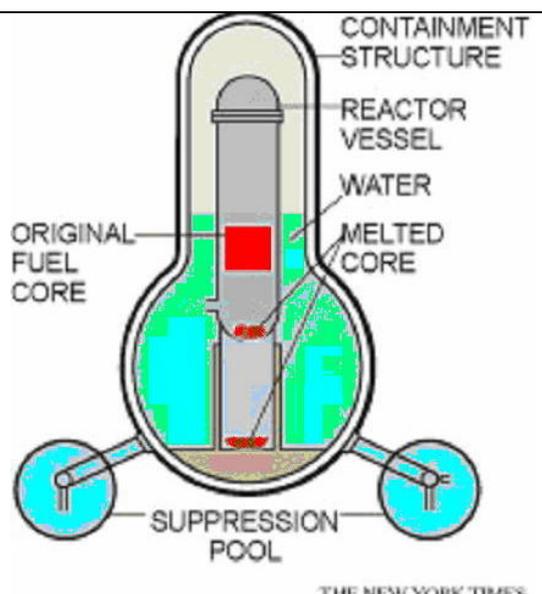
ニューヨークタイムスは、4月6日、米国NRC報告として下記を報じました。

- ①1/2/3号機炉心及び4号機燃料プールの燃料は、一部が崩壊して（燃料ペレットが破片と粒子になって）圧力容器底部に落下している。
- ②当面、再臨界事故の可能性はない。
- ③水素発生量は少ないが、窒素封入を推奨する。
- ④海水等の注入を続けると、格納容器がいずれ満水になり、余震で破壊される危険性がある。

この内、①②③については、私が今までのメモで説明した通りのことで、米国側でもこのシナリオを確認したということです。

問題は④番です。

3号機の例だと、海水等注入量9000t－圧力抑制室空間部5000t＝4000t、つまり、既に格納容器のドライウェル（右図の電球のような形の部分、約6000m³）のうち、既に4000m³に水がある、という推定になります。
右図は新聞の掲載図ですが、類似の結果を示しています。



記事は、格納容器が破損すると、制御されない状態で大量の放射能を帯びた水が流出するという危険性を指摘しているようです。

いずれにせよ、格納容器が満水状態になると、これ以上の注水は不可能になる訳で、このことは、海水注入を選択した時から分かっていたことです。今後、制御された状態で適宜排水する必要があると思います。

2011-4-8 昼

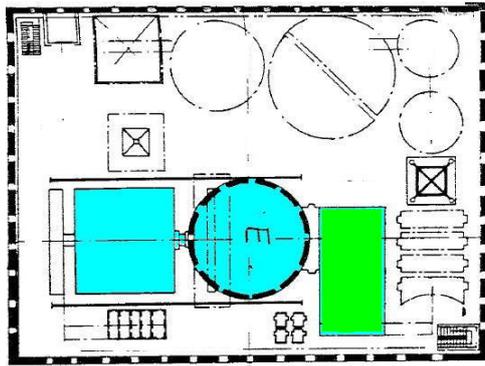
燃料プールの配置

4号機の建屋崩壊は、燃料プールでの燃料発熱・破損が原因なのは確かですが、タービン側建屋壁（写真下側）が大きく崩壊し、反対側が健全なのは何故かが、ずっと気になっていました。

原子炉が5Fの真ん中になかったのではないかと古い記憶を思い出し、図面を取り寄せて確かめました。私の記憶の通り、5Fも4Fも、原子炉はタービン側に寄っていました。

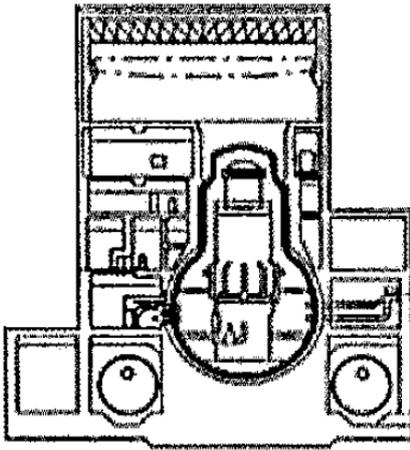


4号機 (3月21日)



2号機5F平面図

下図は、建屋を（上図の）左側から見た立面図（断面図）で、下図の右側が、タービン建屋です。これを見ると構造が良く分かります。1F、2Fでは、原子炉は真ん中にありますが、上階では右端が欠けています。これで謎が一つ解けました。



2011-4-8 昼